

刊夕日四十月二十



定価 一紙五銭 一月一元五角 半年七元五角 一年十四元
 廣告料 五銭 十二字 第一行 五銭 以後 四銭
 日曜 祭日 休刊
 發行所 常磐毎日新聞社 印刷所 常磐毎日新聞社
 電話 六三〇 郵政 特種郵便 認可

幼児童話に於ける三つの基礎

内山 憲堂

二 實際に童話を話さない教育者の中には、一人か二人の子供、話す素人的な場合のみを以て幼児童話のすべてである如く考へ、大衆的童話術を頭から否定しておと人があるが、これは偏した議論と云ふなければならぬ。同じ幼児でも一人々々に話す場合と二十人三十人を前にして話す場合とは自らちがつて来る。少くとも數、名を前に話す場合には、聞いてゐるすべての子供の理解が出来るやうに話す必要がある。すべての子供の注意が完全に掌握出来ることゝ必要である。これがためには研究と練習とが必要となつて来る。

母は立派な童話家である。しかしそれは自分の子供一人だけの童話家であつて、どの母でも幼稚園へつれて来て園児の前に立たせなければ話をすることは出来なからう。

ラヂオにあつても、一人一人呼びかけることは必要である。言葉の誇張も要らなければ、音聲の技巧も要らない。けれども話の筋

の研究、話の味と云ふものが必要である。即ち無研究で臨むことは出来ないものである。

家庭に於ける主婦のエプロン姿は許されるけれどもエプロン姿で公衆の面前へ出ることは出来ないのと同じ様に家庭に於ける童話の形式を家庭外に當て嵌めることは出来ないのである。

三 今度は童話家が、幼児童話を説く場合、多くは童話術から生れた、専門家の立場に立つた議論である。そして、それも幼児の心理の上に立脚したものではなく、數百人に向つての大衆童話の経験に基づいた一般童話論で終る場合が多い。童話には感傷性が必要で、これを持たないものは童話ではないとか、「枕」と云ふものが必ず本話の前に置かなければならないとか、姿勢はかくあらねばならないとか、ゼスチュアールはかくあるべしとか云ふことを幼児童話として論じてゐる。花咲翁が犬に回向することに涙を求め、金太郎と山姥との愛情に感傷を興へ、からち山の兎の義侠に同情をさせる必要が幼児の場合に必要であらうか。

四 童話家が話す場合にも幼児童話は一一般童話術から離れた一つの獨立した研究の上に立つことが必要である。即ち幼児童話術と云ふ別個の話術が生れなければならぬ。

幼稚園に於ける三四十名の幼児に對して、保姆さんたちが話をする場合には童話の専門家の練習に必要はないけれども、一人の幼児を前にした場合は自らちかつた注意が必要とする。即ち素人ではあるけれども教育者としての童話に對する研究が要るのである。

母親や祖父母が家庭に於て話す童話は、一般童話家がある場合とは全々異なつたものである。童話に對する一般的認識と注意と題材の選擇さへ出来れば、自分の言葉を以て自由に表現することゝ出来るのである。

最後に童話家自身も幼児の心理の上に立脚した幼児童話術の研究に進まれ、幼稚園託児所、低學年の先生達も、自分の教育の重大なる役目をするものとして、教育者として童話を幼児に

お與へ下さるやう、更に家庭に於てはお母様達が「童話は専門家の手に任せろ」と云ふ考をすて、母親の任務として子供達にお與へ下さることを希末する。終

木村病院

平町新川町十九
電話一六四番

干ヤナギ いか切込

鯉節 鯉鹽辛

平土橋

丸仙鮮魚店

電六六二番

鯉魚節

御値段ハ御相談ノ上如何程にても御自由です。
日華生命保險株式會社代理店

穴戸屋商店

平町四丁目
電話(千部)二一五番
(鮮魚部)四〇七番

是非!

御融通には御用命下さい
萬事便利な御相談に應じます

三井質店

平。四電六〇番六

吉田眼科病院

醫學士 吉田久雄

賣り始めました

外國製品を凌駕する
優良純國産品
工學博士小林久平先生指導創製

左記販賣店よりお求め下さい

- | | |
|-----|--------|
| 新川町 | 松崎硝子店 |
| 二丁目 | 白土屋陶器店 |
| 大藤町 | 倉糸店 |
| 五丁目 | 入江陶器店 |
| 鎌田町 | 武子商店 |
| 長橋町 | 小野作商店 |
| 土橋町 | マルマン商店 |

喜多流謠曲と仕舞の

稽古をお奨め致します

喜多流 白土會

平町田町六九
電話一二七番

鰯漁百萬圓

海岸活氣を帯ぶ

本郡沿海の鰯漁船は小名濱の十七隻を初め四倉の九隻江名三隻の二十八隻であるがその漁獲高は小名濱所屬船の如きは一隻で最高十三萬圓を稼ぎ最低でも八萬圓を漁獲し江名、四倉漁船も平均一雙して七八萬圓を稼いで居るから郡下の鰯漁は百萬圓を突破したが其八割は魚油を造り而も高値の爲め海岸地方は非常に好況を呈して居る

關田校の新築成る

勿來關田小學校は既報の如く工費二萬圓で川部村中山組が請負工事中のところ此程竣功今廿四日下検査を行ひ廿八日頃引渡を了する筈尚一月一日から登校することになったが落成式は一月中旬頃となる見こみである

工事に出勤して

教練用備品購入

鹿島村青年學校生徒

鹿島村青年學校生徒四十五名はこの程教練用備品を購入することとなり去る廿一二兩日同村矢田川改修工事に出役四十餘圓の収入を見た

第三校の

入賞児童

昨日の作品展

既報平第三小學校は昨廿三日皇太子殿下御降誕記念日に全校児童の書画、綴方、童話、圖書等の作品展覧會を催し審査の結果左の入賞者を決定直に賞品の授與式を行った

(書方) 國井辰三 川又常

鵜沼アイ子 谷島浩治
佐藤イニ子 岡田米子
多丸マリ子 若松英信
瓜生正義 木村康吉 田
眞一 猪狩君枝 江尻朝
子(圖書) 鈴木喜勇 芳賀
武重 阿部等 川又ケイ
梅津文子 西郷享 渡邊
七郎 青木藤枝

身許を明さぬ

老婆の死を

樺太から照會に 平役場が大困り

平町生れ田村ミチ(五)は廿歳頃平町を後にして各地を流浪の末樺太に流れつき寄るべき身を漁業の難役等を働いてゐたが長いドン底生活に肺を病み去る十五日同地の本斗郡好仁村大字南石好で死亡し引取人なきため同役場から平町役場に照會あつたが四十年以上の音信不通で身許が判らず困つてゐる同女は生存中も何等かの事情で自分の身元をかくしてゐた模様であると

年賀用切手

平郵便局が本年初めて賣り出した年賀用一錢五厘切手は十二月中に五十萬枚賣り出す計畫で用意したが現在迄に賣つたのは二十七萬五千枚、四萬一千三百五十圓六錢で約半数を賣り盡した

小川江筋

排水工事計劃

小川江筋組合は明年度より總工費十七萬四千圓で排水改良工事を起す計畫で豫より縣を經て農林省へ工費半額の國庫補助を申請中であつたが去る廿一日付を以つて認可の指令に接したが國庫補助額七萬七千圓の割當は十一、十二年度及び各一萬圓、十三、十四年度各二萬圓、十五年度は二萬七千圓と決定した

逃げた博徒

小名濱町で

小名濱町米野漁夫鈴木己之吉(四)方で廿三日午後二時頃花合賭博を開張し居るのを平署に探知踏込んだが鈴木が逮捕された丈で他四名は風を喰つて逃走、行方を晦ました、め目下嚴探中

第一珠算競技

平第一小學校は今廿五日同校講堂で尋五以上の珠算競技會を開いた尙來る廿六日午後二時より全校生徒の筆記帳展覽會を開き優秀児童に對し賞状を授與すると

性源寺で座禪會

廿五日から五日間開く

平町性源寺住職安戸正勝、猪狩庄平、大森勇、矢嶺庫各氏は青沼鋒太郎氏贊助の下に廿五日より五日間妙義山圓通禪林主佐々木金子師を講師に招き性源寺内に毎夜六時より九時まじ座禪會を催すことになつた

因に行事として毎夜坐禪提唱、獨參を各一時間行ふ 會費は金一圓である

平町性源寺住職安戸正勝、猪狩庄平、大森勇、矢嶺庫各氏は青沼鋒太郎氏贊助の下に廿五日より五日間妙義山圓通禪林主佐々木金子師を講師に招き性源寺内に毎夜六時より九時まじ座禪會を催すことになつた

因に行事として毎夜坐禪提唱、獨參を各一時間行ふ 會費は金一圓である

因に行事として毎夜坐禪提唱、獨參を各一時間行ふ 會費は金一圓である

因に行事として毎夜坐禪提唱、獨參を各一時間行ふ 會費は金一圓である

因に行事として毎夜坐禪提唱、獨參を各一時間行ふ 會費は金一圓である

因に行事として毎夜坐禪提唱、獨參を各一時間行ふ 會費は金一圓である

因に行事として毎夜坐禪提唱、獨參を各一時間行ふ 會費は金一圓である

平町 人事

△死 亡
△搔毬小路五富時樺太本斗郡好仁村大字南石好田村ミチさん(六五)

平職業紹介所報告

△求人を求める方
△ゲーム取見習 廿七才迄
△月給五圓
△外交員 卅才迄 月給料歩合
△炊事婦 四十才迄 月給五圓
△女中 四十才迄 月給七圓
△炊夫 五十五才迄 給料面談
△トラック助手 廿五才前
△月給十圓
△運轉手 卅才迄 月給卅圓
△炊事夫 四十才迄 月給七圓
△番頭 卅才迄 給料面談
△出前持 卅才迄 月給六圓
△柏夫 卅才迄 月給十圓

職を求める方

△鐵工 十七才 高卒
△機械工 十九才 高卒
△左官職 廿三才 高卒
△柏人夫 廿七才 高卒
△料理人 卅五才 尋卒
△炊事婦 四十三歳 尋四修
△集金人 卅四歳 中三修

板塀を破つて

忍込み物色中

怪漢協力逮捕さる

前科が六犯と自稱

内郷村大字白水字川平入山炭礦糧食部内馬目子之松氏經營の販賣所に廿三日午後十時半頃、板塀を破壊屋内に侵入して金品物色中の怪

漢あるを同家雇入箱崎安雄(三)君が発見、駐在所に斯くと急報して協力逮捕したこの男は田村郡飯豊村生れ當時住所不定大和田金

年賀便取扱数

平郵便局の年賀郵便第三日目の廿三日取扱数は引受が一萬一千四百七十七通、昨年同日より三分二厘増加し中繼が二萬二千二百七十六通で八分二厘増し配達が七千四百四十七通で二分一厘といづれも増加を見せた

人夫を働く

内郷村大字御厩居住相馬郡飯會村生れ日雇業荒波忠義(三)は去る廿日午町三丁目元中野吳服店の屋内作業中椽下にあつた鉛二貫餘を盗み出し内郷村大字新町古物商瀧出明に六十五錢で賣却費消したのに味を占め更に鐵類を持つて來るから高値で買つて欲しいと交渉中を平署員に探知され逮捕された

中堅農民講習

石城中堅農民は廿六日午前九時泉村驛前に集合泉村高木竹

全國にも稀れな

不敬事件の

全貌明白となる

昨日第一回の公判開廷

新山小學校を現場臨検

双葉郡新山町に惹起した不敬事件は犯人捜査の必要から一切の新聞記事掲載を禁止し世人の耳目を掩つて警察當局が鋭意捜査の結果犯人逮捕により漸く其の全貌が判明昨廿三日午後一時五十分より平支部法廷で中島裁判長係り清田検事立會、不敬漢、同町字前川原無職井戸川正雄(九)と不敬罪及び建造物侵入恐喝罪として公判開廷されたが畏れ多くも兩陛下の御眞影に係る全國的に稀有な不敬事件の事として中島監督判事の慎重な事實審理に犯人井戸川は犯行の一切を認め證據調べ等あつて結審に至らず今廿四日午前九時より證人である双葉郡新山小學校校長富塚今朝吉氏の現場訊問並びに實地檢證行ひ追つて再び公判開廷されることとなつた

校長を恐喝せんと

合鍵を作り

奉安殿を開扉

恐れ多くも山中に穩匿

酒色に耽つてこの重罪

この我等臣民が權に堪へぬ事件の全貌、犯人井戸川正夫(九)が酒色に耽り金に窮した結果校長を恐喝せんと企みまづ地理的に最も條件の良い双葉郡新山小學校を選び去月二十日午後十一時頃同校奉安殿の施錠の錠穴

へ朱肉を差込み穴の大きさを計り翌日浪江町大字權坑堂渡邊善吉方へ至り「河内村の人に依頼された」と偽り金二十五銭を支拂つて合鍵を作り同夜奉安殿の扉を開かんとしたが錠の深さが合はず失敗し更に前記渡邊

方に依頼し再製させた合鍵を以つて廿四日午後十一時頃再び奉安殿に近づき指紋を残さぬ様手袋をかける等周到な用意の下に今度は容易に扉を開き重さ約三貫匁程ある御眞影の奉安箱を運び出し新山町大字前田字前原の自宅押入れ内へ隱匿更

國旗掲揚が

承諾の合圖

災難の富塚校長

妻文句の脅迫状

同人がこの犯罪を企てるまでに至つた動機はリンドバーク大尉の愛兒誘拐事件或は江戸川亂歩氏の探偵小説に暗示を得たものであつてまづ脅迫の手段として架空の人物松崎權次郎の名義を以て「貴校奉安殿より兩陛下御眞影を搬出保管せり、吾等新黨衛生資金として金八百圓入用に付來る卅日午後六時まで常磐線日追踏切東側道路傍の電柱の根元に

掘つてある穴に右の金を埋め置くべし若し應ぜざれば御眞影返還不可能となるべく且事實暴露せば自然貴下の身邊には我等同志の目が光つて居る故若し警察に届ければ生命を斷つ」云々との左翼の資金網關係の如く見せかけた妻文句を半紙に認め更にその條件に應ずる場合は同校々庭に國旗を掲揚せよと記し二重封筒に入れ投函したが一方この手紙

掘つてある穴に右の金を埋め置くべし若し應ぜざれば御眞影返還不可能となるべく且事實暴露せば自然貴下の身邊には我等同志の目が光つて居る故若し警察に届ければ生命を斷つ」云々との左翼の資金網關係の如く見せかけた妻文句を半紙に認め更にその條件に應ずる場合は同校々庭に國旗を掲揚せよと記し二重封筒に入れ投函したが一方この手紙

掘つてある穴に右の金を埋め置くべし若し應ぜざれば御眞影返還不可能となるべく且事實暴露せば自然貴下の身邊には我等同志の目が光つて居る故若し警察に届ければ生命を斷つ」云々との左翼の資金網關係の如く見せかけた妻文句を半紙に認め更にその條件に應ずる場合は同校々庭に國旗を掲揚せよと記し二重封筒に入れ投函したが一方この手紙

犯人は

不具の男

次弟は上海

事變の勇士

この類例なき不敬事件を敢行した井戸川正雄は明治四十年に新山町大字前田字前川原に生れ十二歳の時骨膜

この類例なき不敬事件を敢行した井戸川正雄は明治四十年に新山町大字前田字前川原に生れ十二歳の時骨膜

この類例なき不敬事件を敢行した井戸川正雄は明治四十年に新山町大字前田字前川原に生れ十二歳の時骨膜

この類例なき不敬事件を敢行した井戸川正雄は明治四十年に新山町大字前田字前川原に生れ十二歳の時骨膜

この類例なき不敬事件を敢行した井戸川正雄は明治四十年に新山町大字前田字前川原に生れ十二歳の時骨膜

この類例なき不敬事件を敢行した井戸川正雄は明治四十年に新山町大字前田字前川原に生れ十二歳の時骨膜

明日のラジオ
廿五日

天 今明も明日も北
西の風晴曇半す

タノ寺院の鐘聲と降誕祭
農民の歌
前九、三〇 管絃樂「胡桃
前九、三〇 新交響樂團
前九、三〇 講演「交通
機關の統制について」増
井幸雄
前一〇、四〇 講演「ニユ
ー・トンの生涯と業績」三
枝彦雄
前一一、一〇 記念講演
「大正天皇の御聖徳」奈良
武次
後〇、五〇 謠曲 葛城神
樂金剛殿
後一、三〇 三曲御山獅子
後一、五〇 雅樂宮内省樂
部
後三、一〇 浪花節「孝子
部
源五郎」春日亭清吉
後二、四〇 長唄 楠公杵
屋榮喜和伊
後三、一〇 詩吟と尺八
福島高商興願會及郡山流
後六、〇〇 子供の時間
合唱 J.O.A.K 唱歌隊
後六、二五 講演「海軍々
縮會議の意義」佐藤市郎
後七、三〇 バイブオルガ
ン 日本橋三越中繼
後八、〇〇 琵琶 吉野落
吉水錦翁
後八、二〇 ラヂオパノラ
マ 大正十五年間 R.K 文藝
課編輯
後九、〇〇 講演「中江兆
民」邑井貞吉



瓦解の謎

(純上級上)

悟道軒圓玉(作)
丸尾至陽(畫)

一三 狙つた時機

堀織部正の家來三島三郎に吉野政助はヒユースケンを斬らむものとそのすきを窺ひ居る。その當時は排外思想が旺盛として、幕府でも外國人カ外出する時は、警固の者をつける。況してヒユースケンは米國公使の代理として一層護衛も嚴重ですと三島三郎に吉野政助はヒユースケンが靈岸島のお花のもとに折々行くと聞いてそこへ来る時には護衛の者もあるまい、この時に斬ることにして二人は姿をかへて尾けてゐた。十二月五日のこととしたが、三島三郎に吉野政助は靈岸島に來るとお花の住の所に馬が三頭つないである。さてはヒユースケンかあるなと思つたが、何時出て来るかそれが判らぬ、そこで半丁ほど八丁堀の方にはなれた△といふ居酒屋へ二人が入つて來た、三島も吉野も商人態二人共包を持つてゐるがこの内には刀を忍ばせてある腰をかけて湯豆腐飲みながら表を見る、すると隅の方から黒の法被に手綱染の三尺をしめた三人連れ、服装の様子には馬丁でもあ

○「オイ民や、今日は旦那がこれから善福寺に歸るかの」
△「歸るだらう、泊るやうなことはあるめえ」



○「異人の馬丁になるには錢にはなるが、心持の悪いこともあるぞ、氣に要いねえと獸の皮でこしらへた靴で蹴るが、この時は撲り仆して日本人の氣前を見せてやらうと思ふが、さて金に

なることを思ふとこゝぞ堪忍のするところとデツと痴癪の虫を踏みつぶしてしまふ」
民「さうだ、堪忍五兩といふこともある、堪忍は五兩の値打がある、さうだ、時に旦那はわのおのつとふ女には大分あつくなつてゐるの美人だとして情には變りかねえな、奇麗な女を見れば美しく見えるから不思議だ」
○「しかしあの女も變つてゐるぞ、幾程贅澤か出來れるよ」

何事もこの世の中は金でございませう、私達もはじめて異人さんを見た時は此奴等が來たために世の中はさばがしくなり、品物は日増に値も上り、不景氣になる憎い奴だと思ひましたが、日本人にくらべるとお金をつかひます、してみればこれも融通になると思ひました近頃は憎くなくなりまして今日も何んじすかえ、異人さんはお妻さんのところへお出になりましたかね」
○「今酒を飲んで避んでゐるよ」

主「馬が三頭つないでありますが、異人さんの他は誰がお出になりましたか」
○「それは警固のお役人と通譯が付いてゐるのさ」
主「へえさうでございますか」
○「オイ民に金、もう引き上げよう彼は旦那は歸る時分だ、オイ爺さん勘定をしておくれ」
主「一貫三百頂きます」
○「こゝへ置いたよ、あゝ、心持になつた、これで寒さも感じねえ、一貫三百で三人の腹に小袖を着りやあ安いのだ」
といひながら出て行く三人の馬丁、その時三島三郎が

政「それでは何處で斬る」
三「麻布に返ることゝして赤羽橋にかゝるだらう、あの川岸に待ち受けて斬つてくれやう」
政「それはいかぬ、今日は有馬邸の水天宮の祭日として參詣の者も多い、その混雑の中で斬ることはなるまい」
三「さうでない、混雑して居るところへ驛を參れば通行の者に怪儀をさせぬやうにと驛の歩みをゆるめるは必定、その時にをどり出して斬つてすて、その混雑に紛れて引き揚げることに致す」
政「成程、それは名案だがかういふことは却て混雑いたし居るところがよろしいか、然らば彼處に待ち受けと、そこで二人はこの酒店を出て、赤羽橋の有驛邸の門前に待ち受けた。

はとて赤袴の妾になるとは」
民「金が物を云ふ世の中だのう親父さん、さうぢやアねえか」
といつたがこの主人が主「御尤もでございます、

十二月二十日ヨリ 間 三井の歳暮大賣出し

必ず御満足遊ばす、商品豊富!!! 値!!! 柄!!! 全商品大奉仕
御贈答格安品!!! 絹布思ひ切つた大提供!!!
絶賛新製品
◇初春日衣裳大特賣
錦紗小紋と訪問着
◇御婚禮衣裳大提供
江戸樓 丸帯 錦紗小紋
御召羽二重紋付 袴地
御召二枚重
御召三枚重

越後 糸 三五〇
本場村山大島 五八〇
秩父 銘仙 三〇〇
昭和 縮大島 一八〇
レーヨン小紋 二、三〇
全疋田長襦袢向 一、五〇
縮緬風呂敷箱入 二、〇〇
モス 春 尺 二、八〇

破格品

三井呉服店
電話三八・二八四番

皆様の足? 尼子タクシーへも豆タクが入りました
御支關から支關へ 迅速簡便 是非御利用を

市内 三〇錢
市外 四割引

流線型セダン
大型貸切バス

宮行——直通は二丁目尼子自動車部より發車いたします
平町二丁目
尼子自動車商會
電話六四〇番

和漆器と家具は 和久井屋
平町二丁目
電話六四〇番